繪本太閤記

七編

十一

へ伊3
1868
83

特13へ
1833
835

續本國記七篇卷之十

目録

大明陸路大軍議攻尉山彰塞話
本藤國史帝が築き給ふる彰塞城の図
第二兄芽國義破志麻を図勢話
芽國義が侵軍言外にて女と捕ふる図
明の郭國安聖澤城の兵粮と燒く図
四川城合戦話
伊勢兵部少輔惣得功を討ち図

志摩國吉廣麿明軍話

目図

関帝霊現話

朝鮮の人武鑑記の図

崇德門外より関帝の廟を望む図

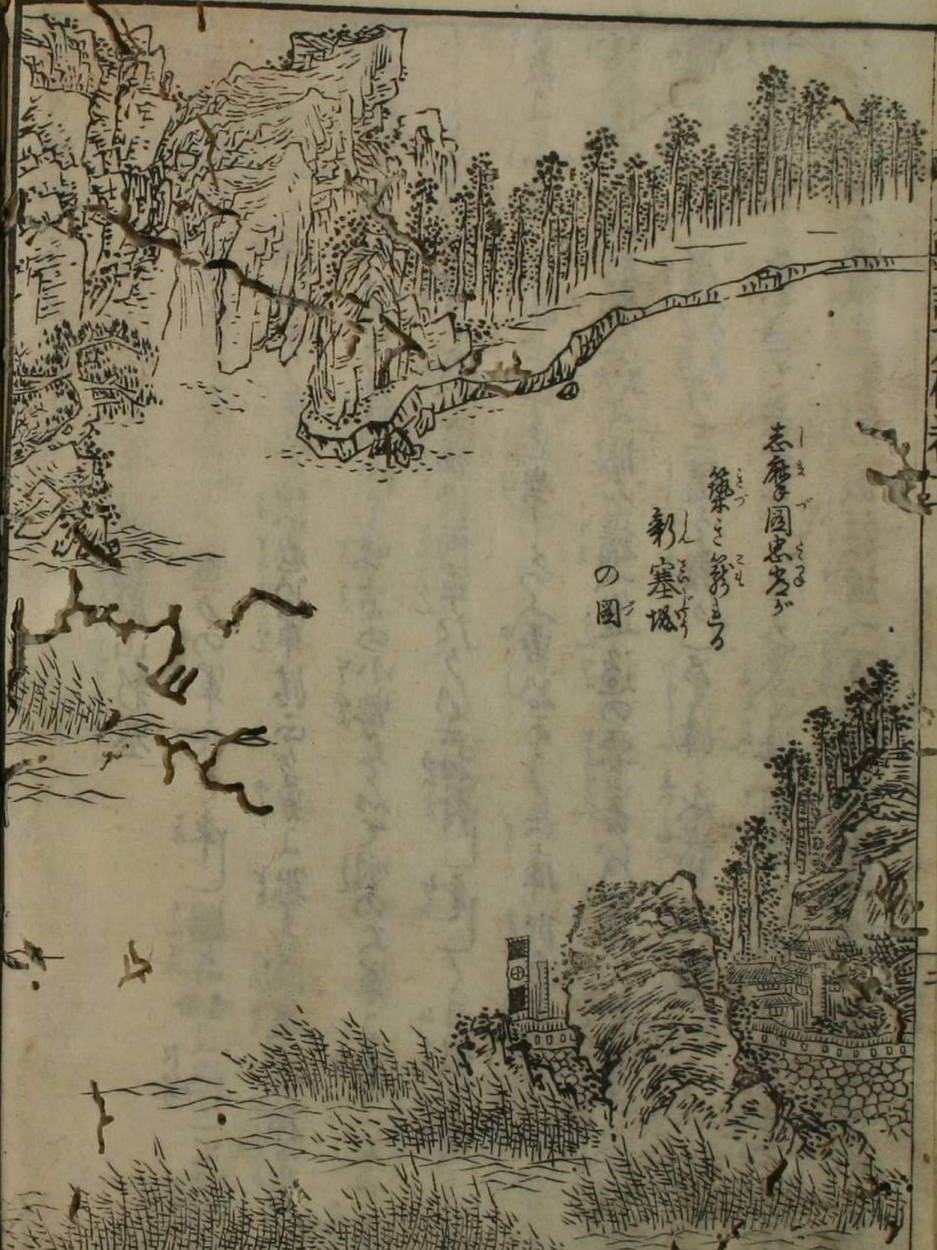
嶽〻より関帝宮の図

関帝霊現の図

絵本太閤記七篇巻之十一

大明陸路大軍議攻蔚山彩塞

此時大明左方の大将麻貴名十余万の軍兵を率て溫井地名より匹て蔚山
名を攻んと欲し先づ彼急を軍清正が勇を怒て城近く押寄ぬ
遠巻して城を守て敢て動ぬ両軍たがひに対峙す日数を送りて
家々志摩國赤七郎忠常という勇将あり兵庫改吉廣なる一万余
騎の逆率にて新塞名の城を構へ近道の要害を悉く斬て其勢い震
尚。忠清。全羅八道の名乃三道を動し軍津。永春。昆陽地名うんとうへ
切て城を築きて兵士をこもらせ金海。固城地名の要城を左右に連
東陽地名より糧米と鞍馬を輸送へ一路の往復連続城の常りに


志摩國忠考が築き給ふる
彩塞城の圖

蟠りたるのみにて此新塞の地形たるや三面に基隈はしく浸
る潮湾岸を洗ひ一方に澤々繞けども洛雒の要害に拠嶮多く聳
て進退とべきたるもなし又吉廣沍川地名よりて陝州。冥寧。咸陽。高灵
地名等の村里と掠め軍威盛んなる奇策をなせば天麿鬼神とうつるも
夷勢の比り難るべし此亟へい大明中治の大なる事如梅人名董一元人名軍兵を
率し向ひ来れども彼国の要害なれば敢て夷よりんとする使りと夷
ひ屯てとどまて守り居るゆ却て嶮兵のみ小夷討朝掛やせらまんと陣
を固め防禦きひしく守りゆ

董一元茅國美破志塵國勢

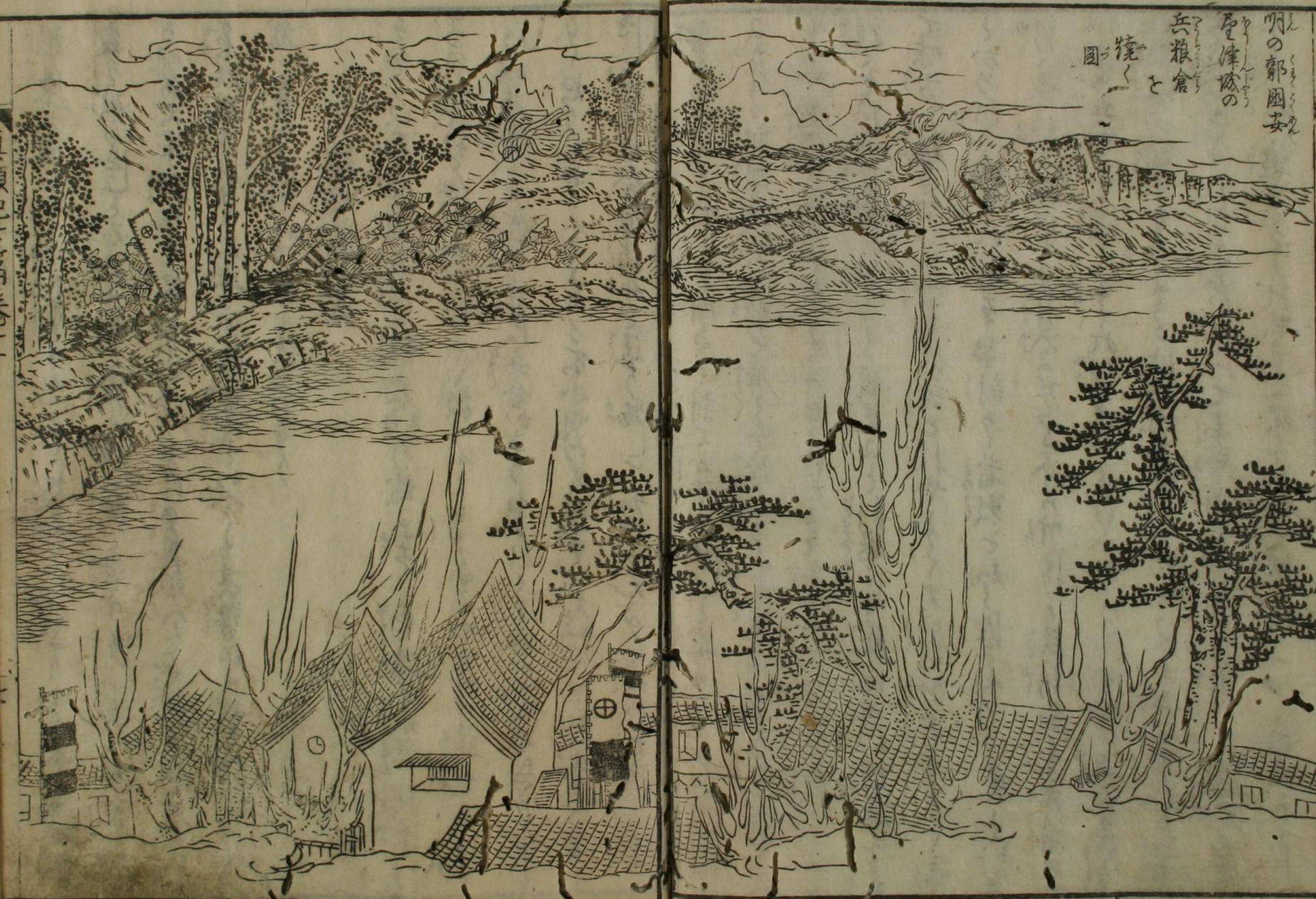
此明ね茅一元人名晋州地名より屯してきまりより漢略をめぐらし彰塞地名の
嶮と夷家んと豆夷心とうしめるる小茅國美人名が幕下の兵士嘗の

外と夷心てせしが一人の女と捕へく茅國美人名が陣嘗より奉る茅國美人名
迎く召きて先を見るる小朝鮮の人なるべ新て先明國の女と怪んで何なる
者ぞと問ふに此女敢て一言も言へ膝より一通の書を出して國美人名が
者にさし出さうに先と見るる小其書の旋より曰く此女城兵のうちより
勇ましく脱ん日本へ渡さもんと吾甚さ先と為りし賞と多く
出しく女が名を續い出し故郷より偽らしんとして大明の軍勢悉帰
を奮れて武い花し摩め武い数言をるの如しかくえりの姓を知ん
と欲せば今云の後埋児の父名い刎武かるの口手妥きの按とぞ記し
うり茅國美人名敢て其姓名と膳るの旋り善く陣中より出し
判断をれども皆心を解く者なし時より諸葛孟人名とつく者先を見て
弑此源語をよく知もう今云い唐の鄭より埋ぐの埋ぐ人二十に巻の

芳國義が
後軍
宮部
女を
捕
国

一人郭巨あり別名姓い郭氏の人なり武州の口とかい國のなまりなるべきの按ずるに安の字なりとふよ是郭國安人なりとして茅國義人を
をあてたきふ赤び城よ郭國安名今日本の陣中よ立よしを聞り此頃
語とりて義軍よ而ひく彩塞地名の城と攻破せんるうべしと
急ぎ朝鮮の高人三人と已て要く計と叛へ書簡を指せく日本の陣
へ送しる彼高人名さまく智畧とめゞし絶よ郭國安名が軍津地名乃
城よ立るを突出て去のび入く茅國義人が書狀を城を責べき計策と
同ふよ郭國安人名盛よやるい今月廿日の夜軍津地名よ繰ひる兵糧庫よ
火をりけそ燒えゞ已まとお図よ大軍をゝて責入給ふべしと約束して
うの高人と已しるふ茅國義人名是を聞て大きに歡び既よ其日城
しのは三方余人の援兵を作軍し軍津地名よ向て河を渡さんと及日本

勢色を見ゝく城戸を開きて討て出城を已じと揃さうるに此時城中
よ立る郭國安人名火と放て庫こを燒えるふ志摩守國勢大ようなく
もとや城内よ叛逆人ありて火とうけたるぞ兵と引とげ火と放へとつよ
程こ大に忽落も就きく我先よと引退くと茅國義人名國廉を見
て味方と招き一人も余さず討とれやとく大波のおるごく嘲
とおめひく切とれ首本勢討ゝ着敵と知ゝびんぐよ知くしき
知よで後よ城門を付入よせらる今叶はじ為知ぞふ茅國義
人名が軍兵いさく進く不ゝ九擣よ火とうけさんいじも義國よ揃へる軍津
城一村の烟とかりよる此時明ね業一元名とうて茅國義人名と和國
を定め業さんい不ゝ敵つて志摩守國勢ところ義さる水春名の城
を責落進きかり此底家よ火を放つて燒えいよ〳〵勢ひよ乘じ


明の鄭國安
是津城の
兵粮倉を
焼く
図

昆陽城の城を十重廿重に囲み攻め給へば志摩国勢
寄を破らんと思ひ給へども我が方の軍敗北なる
る明の大軍斬れども実なきものゆへ負死人を乗越て
責て攻めり志摩国勢勇敢に成て其勢ひに敵を追ひ絶
城と棄て泥川の城に立こもり

泥川城合戦

去ぬる志摩国吉廣い新塞の城に至て澤・永春・昆陽
等の合戦を勇て無と出て敵を悉く落城
為民者退くに地来るは必念かきりなれども今は為き
なく如何と扱き人くあるる有小明の大将一元と彩塞の城に
陣し吉廣有布と送り物して和睦せんと求む吉廣其使
を召寄せ大きに小罵て曰く汝等の計略を知て吉廣を欺
ねる毛魂の程を扱るに似たり我何ぞ汝等ごとき輩の軍に敗まん中略
為に和睦を乞こと先にはじ今暫く解着と汝
等に成るべ吉廣と云て合戦を いとまん附い悪く集元已
明に此言伝人前と法に我軍兵の為に結び
送り物の金銀を踏返して如何まさんに明の使うひ押のき所と掲
嵐のごとく逆人迫り董一元名を少て生捕り
を責深し勢ひ強く彩塞名押へ向やうに 泥方余りの大軍
と引率し泥川名の城を八面より元ここの人彦して責うり
此城を守る大ねい志摩国家に少へ寄る伊勢兵部少輔貞昌三百余
騎すて固ろうるに成しも強ひ此方で敵と矢ごろ近く引よせ

吉廣
明の
供を
罵り
勇威を
示す図

鉄炮の筒先と掠へさんぐゝよりあれば先よりとゝ
よりかさうり死とる者又百余人後へ打ちけて進ミ得ず兵部小輔附
分れ七ツ城兵ハ集り三百余騎城門をかゝと開き鬨をとるゝ面もふ
ず其一文字に突入るゝ雲霞のごとく大軍と両脇入突破り三脇より新手
なる者を率まゝ子ゝ勇と振ふく奥敵をれば明の大軍討ル
者数を知ず只突倒るゝ濤ふうり兼一元名が先より大ねを得
功名とつよ強勇の者偏月カとおふゝく兵部小輔より討て落兵部
物しやゝ呼ゝ血より濤る大刃の槍を引をぐれと脇中脇七ツ
戦ひしる急得功名叶ずとゝ迎ひ馬てうし迎ひと退さまよりうり
ぐさと突より肩先と刃黄き槍の穂先一尺だうり突出ろり何ゝ
なるべき馬より下に落ろうる所後乗えうり前と乗て馬上ゝ

大将晩より討ものはけるの一軍勢のごゝ孤ゝ方ゝ迎ろう
さう兵部小輔附をうし城とをうれいたや明軍入るうしとうり久て
彼の統ひしゝ戦ひるゝ者ろう兵部うてうり城とて大軍とたへ
戦んに心元ゝ城兵のゝ引乗し切て出るゝ
城をんもゝ軍勢と集ろ者ゝ彩雲城へ引入ろう

志摩国古廣城明軍

去ゝ小明の大軍い朱湯名より渡へる日本勢の兵糧を焼盗し破
の勢ひして彩雲名の城を押よせ芽国名人葉郡栄名彭信古名うんど
いゝる兵ね士卒と励ま是城をかゝ攻ゝ寄ろうる城中も実と食不と
防き戦ふゝ人ゝ大軍乱と得て寄るゝ死人とのうゝ脇城際
より案治本横ゝ人ゝる城と焼攻具をて城門を破んとせ攻いろう

俘勢
兵部少輔
義得功
を
討ち
図

ゝん此夷異俗けだて甚だ素直なる者なり味方の兵士を吹掛り
死傷せる者甚多し是を考てよせくの陣中大に乱れとゝとゝへと騒
動し城中より是と見てくをいや切て出てゐる名せよと呼り薩摩図示
士郎忠常一騎人の道兵を引率し城門を開きどんと喚ひて縦横
無尽に突入て大軍却て邪魔とゆり明の者を推て一人戦んと
する者なく戦先と迯出せば志摩図勢い勝に乗り斬捨雑捨
或い馬足に踏倒し乱れ斬まくれば恰も七月八日の切崩さま
実に討る明軍三万余人たまく生残る者こそ庶と驚くぶる者
一人り以て対に大将茅国器一万余の軍兵と城兵い討出ぬ
彼方と責て此城を攻集へやと喚き叫んで攻寄るに城中より大
将薩摩図兵庫助吉廣以下余勢を以て守り防いで寄せ得ん

大きに怒んぐきをひ討び明兵を死をうり見て勇を奮し戦へども
終日叫び三万余人討殺されし此二軍も級を以て数大将茅一元人名茅国
器人名級を見くに惜きものなり諸将戦勝に勝て夷
鎮る吉廣城門を開き自ら出先に馬をとゝめ夷二夷三に突破り
明将徐世卿を生捕りにし切る面倒なり斬てとゝめを刺て
切殺し茅一元人名を見て大
きに怒り馬とゝめ迯行に迯ぬ志摩図
き紛を突に追詰彼方に押ひよせ兵草茂を薙ぎ〳〵振切に切る
るに討る者幾多なり〳〵数を知ず夷に不双の者なり
者都跡にとゝる突に押ひく大将吉廣長追なせとて軍をまぐり
かるぐと城中へ引入る此日討る明人の首三万余級悪く夷と

吉原忠常
明軍と
戦ふる
図

刎て去る程なく諸国へ送りて国々に流す人うるる是より
後は明朝鮮の人民を虜て軍威を恐れる恐れの石受を明の高志ノ国
が勇猛やと云ふるを長うるる

日本勝新元年の首を高麗の王城に入れんとするふを敗しき
より是に来りて諸大名皆其耳鼻を刎首に代て日本に送
るるれば海上の運送も甚安くそを焼き海を高麗に弥
送り給ひる

関帝霊現

扨も此附朝鮮国のありさまを云ふ方こそ哀なれ大明
又十余万の軍兵不くるを此しく欲を討ぐ絶に退退るの切もう
いつ〳〵日を累ぬ狼藉費ひ〳〵くるふ〳〵

日本の軍兵い慶尚八道清忠用上の両道数百里間に城を攻破の要
害を以て威を邦内ふ〳〵ふ〳〵若後七年史と敵ち人と数ふる童
蒙のどうしい朝鮮八道は其七八分い蕭然う荒野と成上人
も農業をたしむる者うく百姓い山林に逃まどい飢死ふる者数万
〳〵ふ数と云〳〵数万山ふりたる林の中ふもいら欲の新捨方
死骸ふい飢て死ふる屍ごもの撲たるまの用もいてらもと
あさま〳〵其中ふも小義ふ之ふるい二三歳の母ふるるの胸に飢
死ふる母の乳ぶさと食て啼ふるを誰ふ是と憐まざるん何者ふ之
を歎うざ〳〵んや朝鮮の相惣柳成龍人ほまりの冷ふるふさ林の葉
樹の皮を粉ふ成て米の粉と成まぜて湯ふ入きまぜて人飢ふる民
ふふ〳〵と其物いかぎりなりて飢人いかぎり已絶ふ数い得ざさ

朝鮮の人民
餓死の図

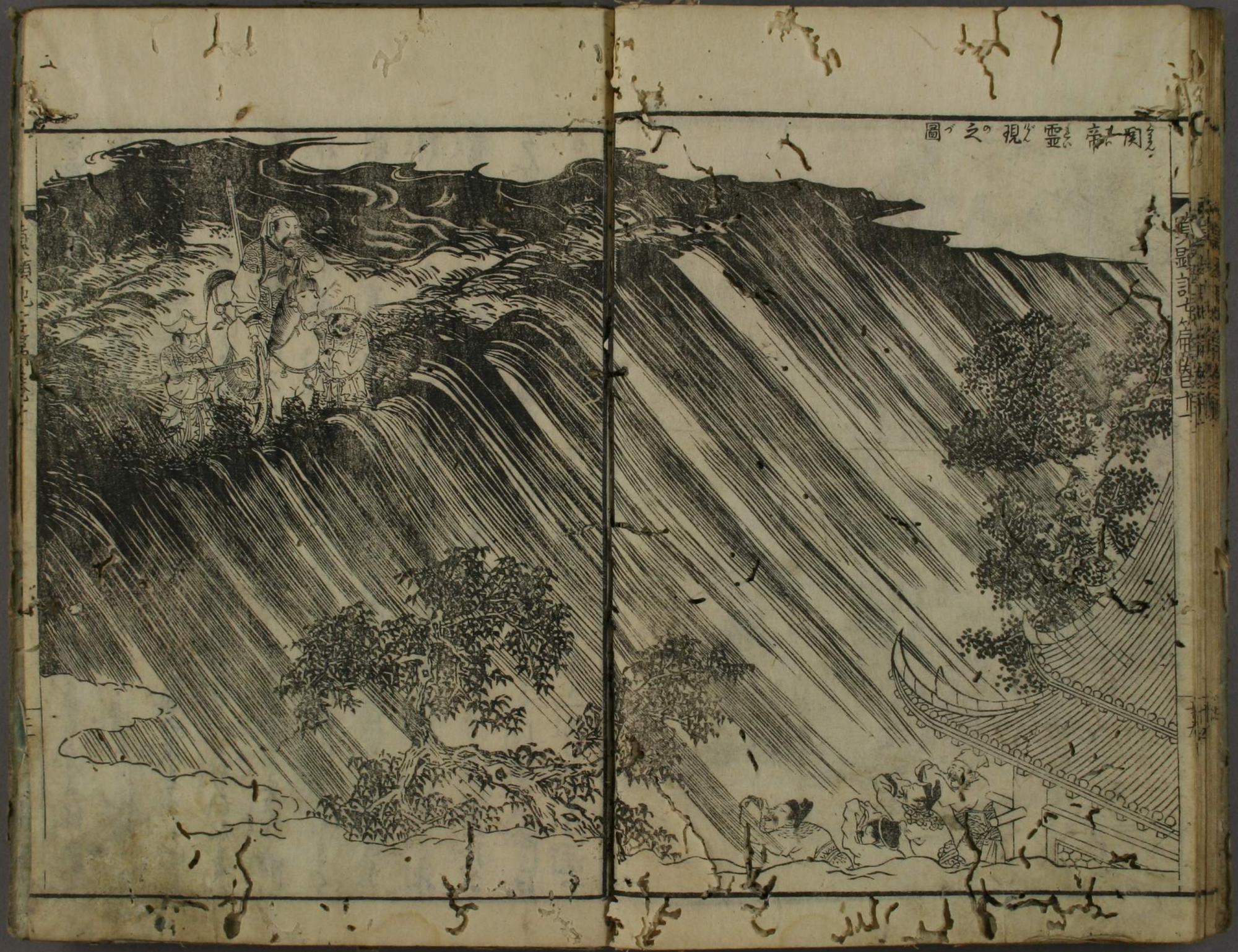
ゆはしびくて日本人今一年も退ぞくんび朝鮮の國を攻ひて人
馬多数ひとつ申すに皆悉く疲るるゝんと欲きるとしまする者の
是朝鮮のこゝろをふかんび大明もまたゝゝと偏んとんしゆをふかと
つゝよ万暦帝荒淫はして政をと荒と心虜孔とはして國の政務をろろ
既よ久しをろ小日本るとし蕊仁の孔をとより永孫元亀天正の附よ
まぐ兵孔は寛と考ひ文と敷さしの人の是百るき武士名又十誇七十
誇兵私よ元のり関東大明地名の間よ猶細襲く財宝とかとろ元者基
良し明人をうゐよ音を使人力と刺ぎ防ぎまるゝの人日本人勇は
て敬て敬とるを強ひび和寇と唱へく明人の恐を懼分く言と孔
孔よ明人の人盗と思ひよ自和寇と称じ郡縣を毋びやうん者又が
ひ日本と恐怖してみるを豈又十誇七十誇の勢力
んや左國こゝろ日本國中の勢と
ゝ是ぞ〜んや文禄慶長の役を世人称して大明を詐んとしを
の美國を征し得く何の用よう使むん第大小小遠へり来古い平秀吉の英雄何ぞ朝鮮を備
大明と征まるのと朝鮮征伐の事と唱へ
ひ書みは大明御陣と書せ給ひて朝鮮御陣とは記し
給ひび朝鮮は日本國のこゝろ忍し明國よみ
さゝゝり朝廷の辟匡國こゝの諸侯をんじ
るゝと倭寇軍を統して寇よ来
遠く西小の夷狄よ逆支る者十ふ
捨く防ぎ戦うんと云者みんやけ
ど勅命の止をうゝざるふすゝく軍を
事勢と恐るゝ虎狼のごく一度
軍兵の強ど多より河の毒をう仕出
日本勢、行と敗の勝ひ

崇礼門外より
関帝の
廟と
言
むづ
國

[illegible]を押付けんとて大石を[illegible]て[illegible]壓すり牧係うるどさきく
[illegible]大明朝鮮の危きを見るに世[illegible]王侯より下庶人[illegible]
絶[illegible]水と踏ずゝく絶[illegible]源測をめぐむゞとし寛[illegible]
軍麻麦人ゞ部下のわ小陳寅名とゝ希[illegible]と三月蔚山名乃
城と戻し対明軍利と矢ひく退きしよ小陳寅名後絶よ石の[illegible]
をお振を揮[illegible]て麻を治ゝとしゞ麻ゞ二月よりて
いよ〳〵麻ゝ絶ゝ[illegible]率よ[illegible]て明の都へ[illegible]ゝ[illegible]
明の山の藤ゝ寓ゝ[illegible]ゞ山西の人民を集り一麻の麻を刻
[illegible]し[illegible]ゝ[illegible]ゝ陳寅名を武ゝ何の麻ゝ[illegible]ゝ同ゞ
[illegible]関帝の祈麻氏建ゝ[illegible]ゝ小陳寅人心中の
[illegible]退してゝ[illegible]ゝ関雲長い早[illegible]して劉皇叔と光武の業

を繼ひ万馬の中と横行して絶ゝ王業と朝ゝ治ゝ[illegible]
分を[illegible]り倭寇を退ゝんと欲ゝ[illegible]万呂〳〵ゞ[illegible]
國危ゝ[illegible]関雲長ゝ[illegible]英雄の出来ゝ[illegible]國家の慈ひを[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]と其一族[illegible]中〳〵歎息して明しゝ
和泉今の世の人力を[illegible]て日本の刺勢と退討んの光武[illegible]関帝
し邪と隔け雖をゝ[illegible]の祈[illegible]ゝ我ゞ丹心と猶て倭寇と
退しめ國家万民のゝ[illegible]ひを脱ひ給へと忽一大祀を設[illegible]教両乃
金銀を出ゝ造祀の費と助け犧牲と備へ番[illegible]焼き丹誠を
らして祈ゝ[illegible]と[illegible]ゝ大明朝鮮の[illegible]何さま神力[illegible]
む國歌を退治ゝ[illegible]ゝ[illegible]と[illegible]ゝ金銀[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ建ゝ[illegible]其[illegible]ゝ[illegible]ゝ祈像[illegible]

魏くわん
関帝堂の図



関帝霊現の之圖

を翔り面赤くして手を拳のごとく風眼はして髯長く引き紙衣を
着うち左右に関平周倉の両像大剣を持しく侍之仮像として
まるごとし大明神宗皇帝陳寅人を奏とるふけ廟の庶まろをぜ
自ら駕とりぐしして廟前に拜し倭寇退散の祈りと祈ひたまふ
是より後此廟前にさうねの乗或い民庶或い男女よろこと悪く拜し
神助と求り〳〵紙と却んと祈る時よ六月十三日関帝の生日にて
朝鮮王李昭宣よ請て大きい小船に多の大明の軍ねるし諸集り
拜し〳〵色しく祈念して曰く関帝大聖王国家の危難と救ふべき神
霊ひ〳〵今日是今月風雨雷電しく其感應を垂給へ
えんぶ宣よ拜をる李国恩と報じく自報をびと一日雨小降じけ
ろハ毛鬱し勅く計かり此日天気清明はして夜よ一塊の雲も見ぬ況や

又月中旬ものびろ空天よ忽西北より一陣の暴風吹来り黒雲広方
よ散漫し雷電鳴るとくしく幸殿〳〵宮よ振ひく衆人躍りとつて脱
びいさまめく菊明霊應を見る上い何の患ひも見みんと慈苦のうち
ふ人く陣面〳〵鳴り久る見より朝鮮の人民皆関帝よ祈祷をと
け安東地是州上名小廟堂を建て霊像を置く偶仰をるのおてとう
色しうへ多へ